

鵜沼城(宇留間城, 宇留馬城, 志水山霧ヶ城) (指定無) (各務原市鵜沼南町)

鵜沼城（うぬまじょう）は、室町時代から安土桃山時代にかけて現在の岐阜県各務原市鵜沼南町 7-23 にあった日本の城。木曽川の北岸の天然の岩山を指し、尾張犬山城は木曽川の対岸にある。別名は宇留間城、宇留馬城、志水山霧ヶ城。

歴史

築城されたのは永享年間（1429 年 - 1440 年）で、築城者は大沢利治という。大沢氏は土岐氏や斎藤氏に仕え、この地方に勢力をもっていたという。

戦国時代中期の永禄 7 年（1564 年）、尾張国の織田信長は木下藤吉郎（豊臣秀吉）に鵜沼城と伊木山城の攻略を命じるが、鵜沼城主の大沢治郎左衛門は強く抵抗。藤吉郎の調略によって治郎左衛門は降伏するが、信長は降伏した治郎左衛門の変心を恐れ殺害を企てるが、藤吉郎の計らいで治郎左衛門は逃がされたといわれる。

その後、鵜沼城は犬山城主の池田恒興に与えられ、恒興が国替えになった後は中川定成が犬山城に入り、同時に鵜沼城も支配した。

小牧・長久手の戦いの中、1584 年（天正 12 年）3 月 13 日、秀吉勢の池田恒興は、東美濃へ向かうと見せかけて旧領である鵜沼城に入城、中川定成が留守なことを利用して犬山城を攻略する。かつての居城ということもあり短時間で攻め落とした（犬山城の戦い）。その後、廃城にされた。

現在

名鉄犬山橋のすぐそばにある小高い岩山が城址である。以前は城山荘という旅館があったが閉鎖。2002 年に廃墟は撤去され山自体は各務原市の所有になるが、麓には私有地があり立ち入りはできない。

また、昭和 50 年代までは、堀と土塁が残存していたが、開発によって失われた。山頂には大沢一族の碑があるといわれている。

Wikipedia による

